

京大の先生と考える

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

エコ〜など京大メンバーが、各自で担当したSDGsの目標をテーマにして、京大の先生にインタビューを行いました。京大の先生がどのようにSDGsを考えておられるのか学び、SDGsについて本気で考えるきっかけとなる話が伺えました。

2015年に国連が採択した「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」は、17の目標と169のターゲットからなり、誰一人取り残さず地球を維持させるための行動目標です。

6 安全な水とトイレを世界中に

これからは水もリサイクル

田中 宏明 教授
流域圏総合環境質研究センター

上水道の供給に必ず付随するのが排水をどう処理するかであり、求められる水質の基準に応じて再生水を活用することで、コスト・エネルギーを節約しつつ水資源を保つことができる。

(上田)

12 つくる責任 つかう責任

時代感覚をもってプラスチック問題を

酒井 伸一 教授
環境科学センター

海へのプラスチック流入が世界的な問題となるとともに、さらに真剣に捉えられるようになったプラスチック問題。ほんの一世紀にも満たない問題をどう捉え、今の我々の生活をどう考えるかが重要だ。

(黄)

参加者 急募!

祇園祭創始 1150年記念プロジェクト 京都市×エコ〜など京大

こんちきジーズ

〜祇園祭から学ぶ持続可能性。SDGsの先へ〜

「こんちきちん」という祇園囃子で有名な祇園祭は、『祇園本縁雑実記』に869(貞観11)年に始まったと記載されており、2019年はそれから数えて創始1150年に当たります。祇園祭は千年にわたり、時代に合わせた変化を伴いながらも全国・全世界の平和や安寧を祈り災害への鎮魂や自然への畏敬の念を携えて続けられてきました。祇園祭の理念を再認識し、その価値を広く発信するとともに、祇園祭から学んだことを基に持続可能性・SDGsについて考え、これからの千年に向けた暮らし方や心のあり方について議論し、SDGsをアップデートすることを目指します。

そこで、**大学生・院生のプロジェクトメンバーを募集します!**


プロジェクトでは、テーマごとに大学生・院生と企業社員がグループを構成し、祇園祭についての学習・フィールド調査などを行います。また、持続可能性・SDGsについても様々な視点から学びます。それらを基に、これからの千年も見据えて持続可能性について議論します。

「祇園祭についてディープに楽しみたい!」
「持続可能性・SDGsを本質的に考えたい!」
「他大学の学生や社会人と一緒に取り組みたい!」
そんな意欲的なみなさんの参加をお待ちしております。

プロジェクト詳細・募集要項はウェブサイトから確認してください!

募集締め切り: 4月30日(火) <http://eco.kyoto-u.ac.jp/konchikigs>

特設サイトはこちら



1 貧困をなくそう

貧困率半減では問題解決にならない

柴田 悠 准教授
人間・環境学研究所

日本の子どもにとって、貧困の実質的問題は、貧困から発生しやすい虐待や機会不平等であるため、貧困率半減という数字ではなく、実質的な問題の解決を目標にすべきである。

(西本)

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

クリーンエネルギーを無駄なく使うための技術

土井 俊哉 教授
エネルギー科学研究科

節約志向になるのではなく、知恵を絞って根本から環境問題を解決することが重要。CO₂ゼロの電気使用の実現を目指して、電気エネルギーを無駄なく使える超伝導技術を研究する。

(白井)

13 気候変動に具体的な対策を

総括的な広い視野で正しい対策を

宇佐美 誠 教授
地球環境学堂

国家間には気候変動の影響や対策の程度に差があり、整備の進んでいない国への優先的な政策が必要である。気候変動を含む環境問題の解決にはSDGs17項目それぞれを関連付ける視点が重要だ。

(後鳥)

2 飢餓をゼロに

社会と生態系の回復力から考える

梅津 千恵子 教授
農学研究科

環境変動に対し脆弱な半乾燥熱帯地域の農村。ショックを受けた際の社会と生態系の回復過程を明らかにし、高い回復力を持つ社会の在り方を探ることで、持続可能な生産・消費を目指す。

(田中)

8 働きがいも経済成長も

真の経済成長は伸びでなくバランス

水野 広祐 教授
東南アジア地域研究研究所

途上国が「資源輸出」に、先進国が「加工貿易」に特化したのでは社会は持続しない。国や産業間の特化をなくし、全ての国や産業がバランスを取り合えるような、新しい経済システムの構築が必要だ。

(高田)

14 海の豊かさを守ろう

生活者と環境問題とのタッチポイントを

北野 慎一 准教授
農学研究科

天然の魚介類を「自然」と考える日本の食文化や、環境保全への寄付が浸透していないことが、問題解決の壁となっている。情報提供に加え、海洋環境問題を身近に感じられる経験が効果的だ。

(谷合)



山鉦巡行



放下鉦建 くじ取り式

3 すべての人に健康と福祉を

Beyond Biosciences for Prevention

木原 正博 教授
医学研究科

Application of integrated and interdisciplinary public health approach for prevention (socio-epidemiology) leads to effective prevention for communicable and non-communicable diseases. New research paradigm should also include social entrepreneurship and cyber space prevention.

(Omondi)

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

SustainではなくChangeをめざして

Easan SIVANIAH 教授
物質・細胞統合システム拠点 (iCeMS)

素晴らしい物質も、安価で使いやすいとくなくれば、それはただの自己満足だ。多孔性物質をラボで生み出し、実用レベルで生産するまでの統括的な研究で、社会の変革を目指す。

(江城)

15 陸の豊かさも守ろう

フィールドミュージアムで現地住民の意識改革


幸島 司郎 教授
野生動物研究センター

アマゾンの生態系を守るには、お金持ち向けのエコツーリズムではなく、現地住民こそが主体となって、その価値を学び、自らの周りの環境を守り伝えていく仕組みが必要だ。


(奥野)

SDGs (持活) プロジェクト

SDGsは近年、さまざまな企業がSDGsの考え方を事業に取り入れたり、日経リサーチの調査で京都市が「SDGs先進度」の総合評価で全国首位の自治体に選ばれたり、上のインタビューのように大学の先生も考えていたり、産官学問わず大変注目されています。そんな持続可能性・SDGsについて考えるために、エコ〜など京大では2年前から、SDGsを考える「持活(じかつ)プロジェクト」を開始しています。このプロジェクトは、多くの教職員や企業・団体と協力しながら、この2年間でますます活発になってきました。今年度はさらに規模が拡大し、特に大きなイベントや活動が予定されていますのでご注目ください!



小学校でSDGsに関する授業も!



みんなで議論&交流のための合宿も!

4 質の高い教育をみんなに

最も身近で最も答えの見えない問い

南部 広孝 教授
教育学研究科

一口に「質の高い教育」といっても、価値観や文化ごとに千差万別。数値で測れない要素もたくさんある。言うは易し、考えるは難し。僕らにも身近なこの問題をしっかりと考えよう!

(山口)

10 人や国の不平等をなくそう

ひとの多様性が豊かさを生む社会

安里 和晃 准教授
文学研究科

人口減少が進む日本では、均質性ではなく女性や移民など多様性が豊かさを生む社会システムを構築すべきだが、特に移民の統合が遅れている。不就業、日本語力、異文化適応など、課題が山積み。

(久保)

16 平和と公正をすべての人に

司法は民主政治の生命線

玉田 芳史 教授
アジア・アフリカ地域研究研究科

法の支配や司法権の独立は、民主政治にとって大切だ。しかし世界には、その大切さを承知の上で、悪用する国もある。現場で現実を直視・実感することが欠かせない。

(横井)

5 ジェンダー平等を実現しよう

世界を統べる語りとは別の語り

岡 真理 教授
人間・環境学研究所

文学を以て、世界を統べる語りとは別の語り、をあらわす。たとえば、フェミニズムを語る時、家父長制のみを問題にできるのは限られた者の特権だということ意識が欠けてはいないだろうか。

(西道)

11 住み続けられるまちづくりを

災害から見えるまちの実正

多々納 裕一 教授
防災研究所

まちに住む人々の防災意識を高め、災害時のリスクマネジメントについて考えるには、被災地域の現状や取り組みを実地で体感し今後活かして行くことが重要である。

(常光)

17 パートナリシップで目標を達成しよう

で、結局SDGsって誰の問題だったっけ?

宮野 公樹 准教授
学際融合教育研究推進センター

SDGsのような大きな目標を御旗に掲げることにはどういう意味があるのか? SDGsは誰が責任をもつものなのか? 国連? 政府? 企業? 大学? そもそもなにゆえ必要なのか? 真に問い直そう!

(安藤)

ここに掲載されているのは17人の先生に行ったインタビューのごく一部。全容が気になる方はこのQRコードにアクセス!



インタビュー実施メンバー

安藤 悠太 (工・D2) 常光 俊行 (地球環境・M2)
Isaac OMONDI (地球環境・M2) 黄 蔚軒 (地球環境・M1)
高田 咲 (農・M1) 谷合 敬太 (法・4) 山口 真広 (農・4)
上田 知弥 (工・3) 久保 文乃 (農・3) 西道 奎 (総人・3)
江城 静順 (工・2) 奥野 真木保 (農・2)
後鳥 友里 (農・2) 白井 亜美 (総人・2)
田中 千尋 (農・2) 西本 早希 (農・2) 横井 晴紀 (経・2)